

今年の夏は、豪雨、頻発する台風とその進路、連日の酷暑と、日本列島は経験したことのないような異常気象に見舞われました。特に酷暑については、過去の観測記録を塗り替えるほどの気温、連続日数で、気象庁が「災害」とまで発表しています。こうした環境の中でも甲子園球場で夏の高校野球は、熱戦が繰り広げられました。途中休憩や散水等の対策をしてはいるものの、照り返しを含めて球場内はかなりの暑さのようです。大会期間の約半分が経過したところで、熱中症らしき症状で救護室に運ばれた人が約250名と、例年にないペースだそうです。

さて、通信関連の屋外工事も、炎天下で行われているのではないのでしょうか。この場合、熱中症予防としてどのような対策がなされているのでしょうか。WBGT（暑さ指数）の計測は行っているのでしょうか。屋外スポーツで同様な課題に直面している身として、気になります。同時に学生時代の道路工事のアルバイトを思い出しました。熱中症などという言葉もなかったころの話で、休憩はやや多めにとっていたものの、何の対策もなし。今となっては信じられない世界です。それよりも海水浴場脇の工事で、皆が水遊びをしているのを横目に見ながらひたすら作業。こちらの方がつらかった記憶が鮮明に蘇ります。（I.O）

先日、「スマート医療」というテーマで、ICTを活かした医療分野での効率化の例を紹介するニュース番組を観ました。大型ディスプレイにバイタルデータやレントゲン写真等、多くの患者のデータを一覧表示できるシステムや、ICタグでの利便性向上、保険適用になったことによるオンライン診療の普及などが紹介されました。なかでも興味深かったのはICタグ。患者や医療スタッフの腕にICタグ付きリストバンドを装着してもらい、その患者が今どこにいるかを把握して行き違い防止に役立てる仕組みです。

私も入院時、リハビリを兼ねた散歩や売店での買い物等で病室を出ているときに、看護師さんが血圧や脈を取りに来てすれ違うことがよくあったため、そういった仕組みがあるといいのと思っていました。一方で、自分が常にどこにいるか把握されてしまう不安もあります。

要求条件によっては、GPSのような大掛かりなものよりも、Wi-FiやBluetooth程度の無線システムがあれば実現できるかなどか、想像を巡らせるのが好きだったりします。定期測定時間に、患者のID番号を検索すれば「在室」か「不在」かが分かるだけのものであれば、プライバシー的にも問題はないでしょう。ICT活用によるさまざまな効率化が、今後どれだけ生活を豊かにしてくれるのか楽しみです。（Y.H）

### こんな時が危ない!

- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日~2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知していて、そこへ行った時

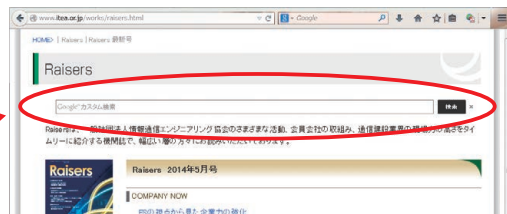
### 「Raisers」はホームページでも閲覧可能です!

「Raisers」の最新号から過去記事までホームページで閲覧することができます。

<http://www.itea.or.jp/works/raisers.html>

また、ホームページ内の検索窓から

読みたい記事の関連キーワードにより全文検索も可能です。是非ご利用ください。



Raisers第66巻第5号(通巻第732号) 平成30年9月5日印刷 平成30年9月10日発行

定価 648円(本体価格600円) ※会員、特別会員の本誌の購読料は、会費の中にこれを含む

■編集 一般社団法人情報通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

■発行所 一般社団法人電気通信協会 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-1 如水ビルディング6階

Tel. (03) 3288-0608 Fax (03) 3288-0615

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)

